



農業委員 人見 源一

平成26年3月、3泊4日の行程で、熊本県及び長崎県での視察研修を実施しました。九州地方も今年は積雪が多く、各地に残雪が見られました。

まず、熊本県菊池市にある「コッポファーム道の駅」で視察を行いました。

当道の駅の特徴は、生産から加工品まで手掛けることです。その中でも、店内に並ぶ商品は、たまご、鶏肉を使用した商品が中心であり、観光客に対して大変な人気の様子で、また、地域の農家約230戸の生産者が持ち寄る野菜や果物が、店内にきれいに並び、生産農家の意欲が強く感じられました。

その他では、コミュニティホール、会議室等も有し、当道の駅の年間の利用客は93万人に上るとのことです。

道の駅の規模としては、中規模と思われましたが、内容は実に優れている施設でした。

2か所目は、長崎県大村市にあ

る「おおむら夢ファーム」です。

当道の駅では、1次、2次、3次及び6次産業まで一貫して行うことが特徴で、店内に並ぶ品々は、様々に美味しさを追求し、加工された商品でした。

当然に新鮮な野菜等も店内いっぱい並び、代表者の説明では、農村は「農損」という暗いイメージがあるが、損が無くなるように、「NO損」を目標に、前向きに進むこととすと話がありました。

また、団塊の世代に向けた農業塾では、作付ける種類、作業、収穫期に至るまで細かく指導を実施しているとのことでした。

常日頃の努力が実を結び、平成19年には全国地産地消活動交流促進部門で農林水産大臣賞を、平成21年にはグリーンツーリズム大賞を受賞されています。常に地域の活性化を目指し、努力している姿が見られました。

この度の農業委員視察研修は、道の駅を中心に視察をしてきまし

たが、本町に於いても、東山道伊王野、那須高原友愛の森の2ヶ所の道の駅が、大変な人気の中で運営されていますが、今後更に、整備、拡張が計画されており、本町の特徴を生かし、地域の活性化の為に、もおおいに期待をしています。

4日間、九州を視察及び各地の観光名所を周り、参加者全員で実に楽しい旅をすることができました。

今後の農業委員会の活動にも、おおいに参考になると思います。



農地パトロール(利用状況調査)への取り組み

農業委員会は農地の公的管理主体として、食料の生産基盤である優良農地の確保と有効利用の促進を図ることが求められており、毎年農地パトロールを実施し、次の事項について重点的に取り組んでいます。

- (1) 遊休農地の把握
- (2) 農地法の許可(届出)案件の履行状況の確認
- (3) 農業経営基盤強化促進法による利用権設定等農地の履行状況の確認
- (4) 農地の違反転用の早期発見
- (5) 相続税または贈与税の納税猶予制度の適用を受けている農地(納税猶予適用農地)の利用状況の確認
- (6) 仮登記農地の利用状況の確認

